

頭を抱えるサトルくん 先輩のビンタ で蘇生

ビンタの痛みとサトル君の精神世界の奥底は繋がっていたのである。

実は世界は物凄く広い。

話はサトルの友人のユウスケに移る。

世界は広い。

この事実には圧倒されてサトル君の友達のユウスケ君はひきこもってしまった。

期間にして2ヶ月。2ヶ月で家から出てこれるくらい病状が軽度ではあったのだが。世の中には家庭内暴力とか非行犯罪

に向かう人たちがだっている。

ユウスケ君はダンスの夢を追っていた。

地元では褒められ、ユウスケ君の上なんていないくらいスゴイって存在になっていた。

だけどとあるきっかけに都市へ出ることになったユウスケは、そこであまりの上の多さに大きく腰を抜かし委縮してしまふ。インターネットでは分からないすさまじさがそこにはあった。

少し気が小さい性格もあったのだろうが。自分の小ささを嫌悪してしまったのだ。

圧倒的、破壊的なレベルのステージを知ってしまった。

友人が多いユウスケは先輩に連れて行ってもらったのだが、となりで「すごいね・・・」とつぶやく先輩とは裏腹に、ユウスケは落ち込んでいた。

家に戻ったユウスケは何もする気が起きなくなり茫然。

まあ・・・巷ではよくある話だが、己の力の無さに。もちろん照れ笑いしていた先輩と違うのはユウスケが本気だったという点だ。

一時的無気力自棄的な状態に陥り部屋から出れなくなったという話だ。

話をサトルに戻そう。

サトルはユウスケよりもある意味では深刻であった。

自分の無気力苦しさが、世の中において自分がちっぽけすぎるというところまで意識考えが及ばなかったのだ。

それが認識できている時点でまだ健全の範囲であると言えるのかもしれない。

職場のストレス嫌なことで頭を抱える人が多い。

友達関係、昨今で言えばSNSでの仲間はずれで自殺にさえ

追い込まれる人たちもいる。

自分はどうして苦しいのかしんどいのか。

周囲にしっかりと目をやり意識を張り、そのギャップとして反動として自分がしんどいのだ。

それをユウスケはまだ自覚できる範囲にあった。

ユウスケは気を持ち直して工場での仕事や地元のボランティアを再びはじめた。しかし残念ながら得意だったダンスは披露する機会が影を薄めてしまった・・・。

体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました。